

基礎ゼミナール(基礎ゼミナールI) 総論

基礎ゼミナール(基礎ゼミナールI) 総論

2単位(必修) 1年(前期)

伊藤 正幸・教授/総合理数学科

【授業目的】人間力の育成とコミュニケーション能力の向上を図る。(1) 教員と学生が議論して課題を設定し、問題解決のための手法を学ぶ。(2) 少人数で、相互に討論し、協力して設定した課題を解決してゆく過程を通じ、学生と教員、学生相互の人間関係を構築し、相互のコミュニケーション能力を高めつつ、人間力を涵養する。(3) 学習の成果を発表会で報告することにより、プレゼンテーション能力を身につける。

【キーワード】[キーワード]

【先行科目】[先行科目]

【関連科目】[関連科目]

【履修上の注意】授業担当者の所属しているコースは、学生の2年次以降のコース配属には直接の関わりはない。

【到達目標】

1. 以下の技能・能力の育成を目標とする。
 2. 1) 文献調査・情報収集能力
 3. 2) 理解力・読解力
 4. 3) コミュニケーション能力
 5. 4) プレゼンテーション能力
 6. 5) レポート作成能力
7. この講義では、汎用的技能修得と体験参加型、課題解決・探究型学習を進めることとしています。各講義クラスの目標については、担当者ごとに示されたシラバスを参照して下さい。

【授業計画】

1. 1) 講読
2. 2) 体験学習
3. 3) ディベート(ディスカッション)
4. 4) その他
5. 大学入学直後の学生が、大学で学習していくために必要なことを身につけるためのゼミナール。大学での学習は、高校までの学習とは異なり、単に既存の知識を「覚え」「正解を導き出す」ことだけではない。自ら考え、疑問や問題点を提示し、それを解決していく方法を模索することが出来るようになる必要がある。そのために課題を設定して、問題解決学習的な要素を取り入れた内容とする。具体的には、出来る限り受講生自身が見つけた課題や問題をテーマとして、それを多面的な視野で検討し、結論を導き

出すようにする。テーマは教員の専門に近い内容のクラスもあれば、専門から離れている内容のクラスもある。多面的に考察するための体験学習も含まれる。

6. プレゼンテーション(口頭発表)

7. レポート作成

【成績評価】評価は、出席の状況、授業への積極性、課題や発表の内容などから総合的に評価する。

【教科書】[教科書]

【参考書】[参考資料]

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218536>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部1号館1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

基礎ゼミナール(基礎ゼミナールI) 総論

2 units (compulsory) 1st-year(1st semester)

Masayuki Ito · PROFESSOR / DEPARTMENT OF MATHEMATICAL AND MATERIAL SCIENCES

Target) 人間力の育成とコミュニケーション能力の向上を図る。(1) 教員と学生が議論して課題を設定し、問題解決のための手法を学ぶ。(2) 少人数で、相互に討論し、協力して設定した課題を解決してゆく過程を通じ、学生と教員、学生相互の人間関係を構築し、相互のコミュニケーション能力を高めつつ、人間力を涵養する。(3) 学習の成果を発表会で報告することにより、プレゼンテーション能力を身につける。

Keyword) [キーワード]

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) [関連科目]

Notice) 授業担当者の所属しているコースは、学生の2年次以降のコース配属には直接の関わりはない。

Goal)

1. 以下の技能・能力の育成を目標とする。
2. 1) 文献調査・情報収集能力
3. 2) 理解力・読解力
4. 3) コミュニケーション能力
5. 4) プレゼンテーション能力
6. 5) レポート作成能力
7. この講義では、汎用的技能修得と体験参加型、課題解決・探究型学習を進めることとしています。各講義クラスの目標については、担当者ごとに示されたシラバスを参照して下さい。

Schedule)

1. 1) 講読
2. 2) 体験学習
3. 3) ディベート(ディスカッション)
4. 4) その他
5. 大学入学直後の学生が、大学で学習していくために必要なことを身につけるためのゼミナール。大学での学習は、高校までの学習とは異なり、単に既存の知識を「覚え」「正解を導き出す」ことだけではない。自ら考え、疑問や問題点を提示し、それを解決していく方法を模索することが出来るようになる必要がある。そのために課題を設定して、問題解決学習的な要素を取り入れた内容とする。具体的には、出来る限り受講生自身が見つけた課題や問題をテーマとして、それを多面的な視野で検討し、結論を導き

出すようにする。テーマは教員の専門に近い内容のクラスもあれば、専門から離れている内容のクラスもある。多面的に考察するための体験学習も含まれる。

6. プレゼンテーション(口頭発表)

7. レポート作成

Evaluation Criteria) 評価は、出席の状況、授業への積極性、課題や発表の内容などから総合的に評価する。

Textbook) [教科書]

Reference) [参考資料]

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218536>

Contact)

⇒ Ito (Faculty of IAS 1-1220, +81-88-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)